

20-Bit, 8-Times Over Sampling, Sign-Magnitude Type D/A Processor

デジタルオーディオの進展はレコーディングサイド プレイバックサイドとも目覚ましいものがあり、デジタル固有の欠点として指摘されてきた問題も関係各位の的確な努力の蓄積により可成り解決されて参りました。

現在D/A変換方式は3種類のタイプが具体化されております。

すなわち ①マルチビット+デジタルフィルター方式

② $\Delta\Sigma$ ビットストリーム (いわゆる1 Bit) 方式

③フレクエンシードメインでは疑問を残すものの、タイムドメインレスポンスを重視した設計のDSP (Digital Signal Process) 方式 　　です。

この3方式は 理論はともかく現実面では各々一長一短がありどれかが総ての点で優れているというものではありません。

前作のDAC-X1tでは敢えて新規性に感わされることなく 現段階では音質上最も熟成し周辺技術上も問題のないマルチビット方式を採用しました。その結果 国内はもとより海外に於いてもリファレンスモデルとして高い評価を得られたことで当初の目的は達成されたと考えておりますが、ここで得られたノウハウを基に よりローコストでユーザーフレンドリーなモデルの必要性が生じてまいりました。

そこで今回発表致しますのが この新鋭機DAC-TALENTです。

その内容についてご説明しますと、DAC-X1tで使用したDACモジュールは オペレーションスピードを誇り、かつ信頼性と安定性の優れたハイブリットモジュールですが これをその儘ローコストモデルに採用することができません。それでDAC-TALENTは 先日技術的特長を備えて発表されたBB社のモノリシックICを採用しました。このモデルは 1つのモノリシックチップ上にDACを2つ組込み、一方を正の 他方を負のユニポーラ変換にあてて ゼロクロス歪の発生を根本的に取り除きました。更に 今迄のマルチビット型では免れなかったグリッジスパイクの発生を廃絶する特長も備えております。これによりDAC-X1tで使用した回路でさえ必要不可欠であったディグリッチャーが省略できるという 高音質再生上大きなメリットを得たことになります。従ってDACチップ以降に必要なコンポーネントは 複雑なパルススイッ